

日和西雨時報

極東諸問題

滿洲國の專管に

新京二十八日發電によれば、滿洲國政府は東支鐵道管理委員會を構成し、その議長には在モスカ夫滿洲國政府代表を任命することに決定したる由

満洲國は之が實現に全力を注ぐべく意氣込んで居る、一と

度此の事が發表されるや否や、

工業企業團の興味を刺戟するこ

と善しく、南滿鐵會社幹部は連

露西亞機を急造

飛行機を急造

憲法改正起草委員會成立

各方面より三十一名の委員任命

重大影響を及ぼさむ

東京廿七日發電 四六時中内されつある日露不侵條約締結

田外相の側近にあつて信頼最も交渉は頗る順調に進歩しつゝあることによれば最近商議あることをふことである、當地に

厚き某氏の言によれば最近商議あることをふことである、當地に

でゐた處去る廿七日委員卅一名の大立物アシス・ブラジル氏政治の幾多の代表者と、今大の

本紙前號に報道の如く聯邦政府の任命を了し即日公表した、そ

は即時憲法改正委員會の編成にの顔振れを見るに大體現聯邦政

府の大臣を中心として之に民主

十月革命によつて瓦礫した寡頭

充て、從來の定員よりは大分減

員せらるゝ意図らしく、此點に對しては民主黨の網羅に掲げられ

る譯である、更に憲政會議招

集に關する聯邦政府の法令中に

對しては、各専門家

である、理想が多分に實現せらるゝ意図らしく、此點に對しては民主黨の網羅に掲げられ

る譯である、更に憲政會議招

集に關する聯邦政府の法令中に

</

セメント工業上に

ボートランド會社の進出

去る廿八日聯邦政府とボートラ

ンド洋灰會社との間に契約成立

し調印を見たと報せられて居る

右の契約によると同會社は近く

伯國領土内にセメント會社を

設立し、之によつて聯邦政府か

ら國內產出原料の使用其他各種

の恩恵を獲得し、その交換條件

として左の如き条件を承認する

に至つたと云ふ

一、會社の雇用工の八割は伯國人職

工を以て之に充てること

二、見習工十名及び技師三名なりオ

工科大學の承認を経て入社せしめる

三、同社一年生産量の三割を聯邦政

府に於て買上げること、假し其の價

格及條件は市場賣捌より安價且つ有

許可を得ること

ワ長官

各國領事も招待

聖州軍政長官ワルドミロ將軍主

領の各國領事開接待は種々の都

合で延び、となつて居たが、此

は祝辭を述べる所があつた

サンパウロ州
大體案成る
兵備改革

聖州軍政長官ワルドミロ將軍

は憂に就任せらる當時の抱負に基

き豫てより州警兵減員の可能性

を調査せしめつゝあつたが、此

程右に關する委員會(高級武官

より成る)の調査研究進捗し大

體成案を得た由報告に接したと

是れによれば

去る廿八年は無期懲役に、其

他百七十八名は夫々二年以上十五年の

言ふ、

是れによれば

早稻田

大學創立五十周年

秩父宮殿下を

迎へ奉りて

就任挨拶爲す

創立五十周年紀念を迎へた早稻

田大學では去る十月十七日大隈

老侯と高田前總長の銅像除幕

式を挙げた、祝典第一日十八日

代の宮は御退場遊ばされた、と

これ迄毎航移民船到着毎に検疫

港したサントス丸にも新移民中

八名の虎患者があり上陸を禁ぜ

られた仕方なくブエノスへ向つた

た、されど船中必死の治療を續けた甲斐があつて去る廿八日再

港したサントスへ寄港しか際は見事

してゐたが、先般サントスへ入

港したサントス丸にも新移民中

八名の虎患者があり上陸を禁ぜ

られた仕方なくブエノスへ向つた

た、されど船中必死の治療を續けた甲斐があつて去る廿八日再

港したサントスへ寄港しか際は見事

してゐたが、先般サントスへ入

港したサントス丸にも新移民中

八名の虎患者があり上陸を禁ぜ

られた仕方なくブエノスへ向つた

た、されど船中必死の治療を續けた甲斐があつて去る廿八日再

は對塗作業班が編成し國道の整造及び修理維持に當らしめ、從來州警兵隊の現役として取扱はれて居た消防隊は之を改めて移管し、その維持費は市會を以て預拂せしめ、サントス、カムピーナ市にも同様の方法を探ると言ふ

は對塗作業班が編成し國道の整造及び修理維持に當らしめ、從來州警兵隊の現役として取扱はれて居た消防隊は之を改めて移管し、その維持費は市會を以て預拂せしめ、サントス、カムピーナ市にも同様の方法を探ると言ふ

故山田ドットル

追悼會

一日午後二時より

故山田ドットル不慮の災難に発生

本流に數えて三七日に當るわ

けで今更の様に追憶の情に忍びぬものがあるが、同日(十一月)

ぬものがあるが、同日(十一月)

れで以來既に二十日、明日は日になつた

め、それに伯國は日本民族の移住地として他に比類なき好適地たるを了得し、今後一層在米同胞の伯國移住に努力すべき信念を固め来る四日サントス發のサントス丸にて北米に引返へす事

するを了得し、今後一層在米同胞の伯國移住に努力すべき信念を固め来る四日サントス發のサントス丸にて北米に引返へす事

するを了得し、今後一層在米同胞の伯國移住に

中村大尉最後の眠り

南にて
「銃剣は耕す」より

2、彼は歸らず

南にて

2、彼は歸らず
中村大尉はその宿を發つとき
持つて來た支那服を着かへた、
それは淺黃色の木綿の長い服で
あつた、ズボンをしめる紐がな
十日頃のことです」

宿の主人與駒郎さんは、洪南へ暮着い
てから五年になるそうである。その前は

支那最は初めてばあつたらし
がつたので、お神か白い三天星
諸侯の方にあた、南大將が久留米の城
を持つて来て、半分に引き裂い
た、それを腹にしつかりとしめ
込んだ

「支那服はボケツトが
かつた、『支那服はボケツトが
少ないから不便だ』などといつ
たりした
わんぱく
かねんべ

黒いお椀<おんせん>を腰から引き落し、赤い珊瑚玉<珊瑚玉>が目につけた。その三尺<さんし)^丈の半分<はんぶん>も、こゝに身<みだり>となつて残つてゐる。

「いつてゐる、二三本<にさんぽん>しか骨<骨>のないしなびた扇<せん>だが、奥賀耶<おくがや>さん昔<むかし>はなか／＼のあればものであつたらじい」

「湯<ゆ>南<なん>なんかになぎ來たのです？」

宿の主人とS大尉が宿を發つ
間もなく、トール河の橋の上
で、東站（東の停車場）を發つた
車の中に中村大尉の姿を見た
宿の主人とS大尉が宿を發つ
間もなく、トール河の橋の上
で、東站（東の停車場）を發つた
車の中の中村大尉の姿を見た
「どういふわけですか？」
「なるべく危ないところでやつてみやう
ました」

井杉氏もこの宿で洋服から支
加服に着かへた、中村大尉と同
居する。中村は、井杉の洋服をうなづいて、

宿に井杉氏の残して行つた服
が残つてゐる
霜降りの脊廣上下、茶色のレ
絞られました、第一此處は外人の危険區
域だから、どこかへ行けと何度も言つて
来ました」「ある時は夜中に六七人の盗賊が戸を叩

インコート、濃紫地に菊模様の
のるチクタイ、クレツブシヤツ
藍鼠色のズボンツリ、空色黒筋
人の靴下、藍色のガーター、空
「宿の支那ガーリーは、貴婦は外人に使は
れてゐる犬ださいて追つ立てられまし
た

「その時も金の千両も出せば大目に見て
やるさいひました、千両さいふ大金はな
いさいふ、六百両にしてやるさいひま
した。それもないから殺すなどうなさ
うに思ひまして、お出立の日

の事が今でも目にチラリとさます
トール河の橋でチラリと見た時
中村さんの顔が今でもピッタ
してくれいふを、四百圓にしてやるか
大人しく出せさいひました』

四日目に雨の中を濡れながら歩く。立顔で、首も金を取らざることは看れぬ。やうな顔をしてました。

「何處から歩いて來ました」と
いつたら「白城子から來た、驛
へ下りては人目にかかると思つ
たので」といつた
中村大尉等は七月の末になつ
ても洮南へ歸つて來なかつた
宿では懶に心配はじめた、
しかしどうしてみやうもなかつ
た
搜索の人達がこの宿へ來たり
出たりするやうになつた
宿のまゝに立番するものが
あつたりした、その眼を盜んで
裏木戸からいろいろな人が出入
した
中村大尉もその木戸から出て
行つたのであつた
間もなくこゝを釘づけにされて
しまつた

士は感激の餘り直ぐ様子十四
を買込んで、部下の醫員全部
頗け與へ「これを精讀坑味し
一八月十日までにこの一冊の中
法書解説

處までも眼の動きを問題にす
所、流石は眼科の先生だとエ
イ評判。

九月號 音樂俱人場